

講演会報告

第 71 回応用物理学会学術講演会（2010 年）

講演会企画運営委員長 堀 勝*

第 71 回応用物理学会（2010 年秋季）学術講演会が、2010 年 9 月 14 日（火）から 9 月 17 日（金）までの 4 日間、長崎大学（長崎県長崎市）で開催されました。これまで、九州開催の学術講演会は、全て福岡地区で行われてきました。今回は、初めて福岡地区以外の地域として、歴史ある長崎での開催が実現しました。また、無事会議を終えることができたことは、九州での秋季講演会開催において、今後は福岡地区以外の他の地域での開催が可能であることを示しており、非常に意義深い講演会となりました。長崎開催で一番の心配は台風の襲来でしたが、幸いに、会期中は一時雨が降ったものの、比較的良い天気にも恵まれました。また、宿泊施設の確保においては、竜馬ブームの影響等で数に限りがあり、十二分な対応ができなかったことをお詫びいたします。しかしながら、経済情勢も回復の兆しは見られるものの、まだ厳しい中で、6,036 名の方々に参加登録をいただき盛況のうちに秋季学術講演会を終えることができました。

本講演会は、九州支部を中心に現地実行委員会が組織され、1 年以上も前から開催に向けて準備を進めていただきました。現地実行委員長の藤山寛先生（長崎大学）、副委員長の浅野種正先生（九州大学）、岡田龍雄先生（九州大学）、福永博俊（長崎大学）、馬場恒明氏（長崎県工業技術センター）をはじめ、現地実行委員会の諸先生方のご尽力に厚く感謝申し上げます。また現地実行委員会顧問として全体運営にご配慮頂きました片峰 茂長崎大学長、清水康博 長崎大学工学部長をはじめとする関係の方々のご多大なご尽力に対しまして、この場を借りて御礼申し上げます。

今回の講演会では、発表者数は一般講演 3,457 件、29 テーマのシンポ（特別 5 件含む）、招待講演 597 件、計 4,054 件の講演となりました。長崎は、日本の科学技術の発祥および伝達の地であり、今までとは一味違った講演会になるように、新規企画を打ち出す

ことで講演会の充実に努めました。以下に、そのトピックスを示します。

英語セッションとナイトセッションを初めて導入し、様々な工夫を凝らした下記の 5 つの特別シンポジウムは大好評でした。

「レーザー：生誕から半世紀を経て、新時代を切り拓く究極の光を求めて進化し続ける魅力とは？」中野英俊氏（NTT）を中心にして記念すべきレーザー生誕 50 周年を記念して企画されました。レーザー研究の草分け的な先生方から当時のエピソードを踏まえた貴重な講演をいただき、常時立ち見ができるほどの賑わいがあり、大成功となりました。

「グリーンプラズマテクノロジー 地球再生を目指した最先端プラズマ科学技術」九州ではプラズマに関わる方々が多いことを鑑みて、講演会企画委員会で企画されました。大気圧や液中プラズマという革新的技術をいかにグリーンテクノロジーに使いこなしていくかについて、最先端の科学技術が公表され、多くの参加者がありました。

English Session 「Prospective of Semiconductor Research in Asia-VLSI and Solar-Cell」九州支部と長崎大学との合同企画であり、MRS 会長の招待講演を含め、海外から同分野をリードする冠たる研究者を招聘して実現しました。英語セッションは初めての試みでしたが、英語での講演に違和感はなく、大成功で終了しました。応用物理学会の国際化への第一歩が始まったと考えています。ナイトセッション「ソーラーアイランド九州の挑戦」九州支部とプラズマエレクトロニクス分科会の合同企画で、初めてナイトセッションが実現されました。現在、最もホットな話題であるソーラセルに対して、企業から最先端の話題提供や課題の提示があり、終了時間 19:20 まで会場が参加者で埋め尽くされ、

画期的なシンポジウムとなりました。

「分子技術、新ステージへの胎動～科学・技術として今、期待されることは～」応用物理学会とJST共同特別公開シンポジウムとして、参加者無料で開催されました。分子技術を通して異分野の融合と広大な未知領域の開拓が生まれることが浮き彫りとなり、多くの参加者がありました。

その他、「有機デバイス研究のための有機薄膜学入門」および「科学啓発教育活動入門」の二つのスクールや恒例となった人材育成・男女共同参画第10回ミーティング「若手のキャリアデザイン」、博士のキャリア相談、APEX/JJAP フレンドシップミーティング「なかなかやるぞ APEX」なども多くの参加者がありました。

展示会においても、新企画として出展者によるナイトセッションを開催し、ポスター形式で出展者から発表がありました。飲み物のサービスがあり、なごやかな雰囲気が出展者と参加者との充実した情報交換がなされました。また、長崎大学藤山研究室からは人工オーロラ発生の実演があり、多くの参加者の関心を集めました。

最後に、長崎を代表する観光地（グラバー園）を貸し切ったの懇親会には、天気にも恵まれ、400名以上の参加者で賑わい、オペラを鑑賞しながらの懇談は記憶に残るものとなりました。今回は、幾つかの新しい企画の施行に挑戦しましたが、いずれも魅力溢れる企画となり、参加者には満足していただける講演会ができたものと考えております。このような革新的かつ魅力的な企画を立案された多くの委員の皆様最後に感謝の意を表します。

* 名古屋大学大学院